

港区立白金小学校
令和元年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の観点別正答率は、全国、区の平均正答率を上回っている。 ・漢字の定着においてはどの学年も個人差が大きい。その他の言語については、低学年は、助詞（てにをは）の使い方に課題が見られ、中学年はローマ字、高学年は指示語や言葉のきまりに課題が見られる。 ・読みの力は全体的に高いが、目的に応じて文章を書いたり、相手の話を聞き取った上で自分の意見を伝えたりする力の定着は個人差が大きく、十分でないと思われる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の観点別正答率を見ると、目標値を上回っている。概ね満足できる状況にあるが、資料の読み取り能力や、自分で学習問題に対する答えを導き出したり、説明したりすることが課題であると考えられる。 ・社会的な思考・判断・表現については、他の項目と比べると正答率は高くない学年もあった。資料を活用し、社会的な事象の因果関係を考え、知識と結び付けながら考える力が弱いことが伺える。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の観点別正答率は、全国、区の平均正答率を上回っている。 ・基本的知識は概ね身につけている傾向にあるが、繰り上がり・繰り下がり、かけ算九九、文章からの立式、10進法と60進法の混乱など、課題も見受けられる。 ・全体的に数学的な考え方の定着度に課題が見受けられる。 ・図形の定着度にも課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の正答率は、全体的に全国、区の平均正答率を上回っているが、中学年は「植物の育ち方」、高学年は「電流のはたらき」「動物の体のつくりと運動」などで、理解が足りていない児童が多いようだった。 ・基礎的知識は身に付いている傾向にあるが、実験や観察から得た結果をもとに、判断したり、自分の言葉で考察をまとめていったりするなどの力が不足しているように見受けられる。

2 各教科の具体的な授業改善

国語	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を正確に理解し、適切に用いて、自分の思いを表現することのできる能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞（てにをは）の使い方や、ローマ字、指示語、言葉のきまりを習得できる学習プリントを用意し、朝の時間などに取り組む。 ・目的に応じて文章を書いたり、相手の話を聞き取った上で自分の意見を伝えたりする機会を、授業の中で多く取り入れていく。

社会	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な思考・思考・判断 ・農業や水産業についての理解 ・自動車をつくる工業についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が示す事実や意味について考えていく。 ・情報を読み取る活動をたくさん取り入れていく。 ・施設や設備の目的を考えるとところから始め、協同的に解決していく。 ・資料を比較・関連させて考え、説明する活動をたくさん取り入れていく。 ・興味や関心をもたせるため、導入部分に力を入れていく。

算数	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の定着度を上げる。 ・図形の知識、技能の定着を図る。 ・数学的な考え方を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルなどを活用して、繰り返し問題に取り組ませる。 ・低学年の定規での直線引きから、分度器での角度の測り方、コンパスの活用など、復習に取り組ませる。 ・授業の中で、児童各々が考えた結果を発表する機会を多く設けたり、情報交換させたり、その考え等から授業をまとめたりする。

理科	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験などを通し、問題解決の力を養う。 主体的に問題解決しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験から得た結果をまとめるにあたって、中学年は形式に慣れるため、穴埋めにしたり、キーワードを提示したりする。高学年は、自分の考えをより科学的なものに変容させるため、グループで意見を交流するなど、対話的な学びを行うようにする。 共通体験を基に問題を見出し、既習内容や実体験を生かしながら予想や仮説を立てさせて、実験や観察を行うようにすることで、自分事として問題を解決する態度を養う。

生活	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 観察や体験などを通し、自分自身のよさや成長、自分を取り巻く人々や環境に気付き、自立への基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや交流を多く取り入れ、活動を充実する。 実際に手に触れて観察したり、活動したりし、五感を使って、様々な点に気付けるようにする。 自分だけでなく、他者にも目を向けさせ、周りの環境への気付きを高めたり、認め合う場を作ったりする。

音楽	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題解決に向け、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較したり、関連付けたり、言葉や体の動きで表すなどして、音楽を形づくっている要素に着目させる。 音楽活動と言語活動を関連させ、よさを価値づけし、全体で共有し共感させる。 学んでいることや学んだことを自覚させる。以上のことを意識した学習指導を展開していく。

図工	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いをもって主体的に学習に取り組む能力。 自分の思いをかたちにするための基礎的な知識や技能の習得。 自分や友達の作品の良さや違い、価値に気付くことができる力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階で制作の見通しがもてるような授業展開を行う。 材料や用具の基本的な使い方を段階的に丁寧に指導する。 互いの作品の良さや違い、価値に気付くことができるよう、制作中に互いの作品を見合う場を設定したり、作品発表会でワークシートを使って全員が自分の考えをもてるようにしたりと発達段階や題材によってその都度鑑賞のあり方を工夫する。

家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が日常生活の中で、針と糸を使って物を作る経験や調理をする経験が乏しい。そこで、基礎的・基本的な技能を身に付けられるような指導に重点をおく。視聴覚教材を活用して、繰り返し運針の手元の様子を提示したり、ガス器具や包丁の安全な使い方を提示したりする。技能の定着や実際に使えるようにするために、家庭で行うよう課題を出す。 安全に十分配慮するために、調理実習やミシン等の実習の際には、保護者の協力を呼びかけ、大人が複数で対応できるように体制を整える。

体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 運動環境の整備を行い、運動の日常化を図る。 低学年での運動感覚を身に付ける。 基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 体力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に運動をしない児童が多くいるので運動の日常化につなげるために、学校の校庭、体育館の環境、教具を工夫していく。 高学年になり、鉄棒やマットなどで恐怖心を感じる児童が多いため、低学年のうちから、遊びの中で逆さ感覚や、回転感覚を身に付ける。 体づくり運動を通して、全身を使った運動や用具を操作する経験を積ませることで、身体感覚や基礎的基本的な技能の定着を図る。 体力テストの結果から握力と投力が全国平均に比べて下回っていた。各教室に握力グリップを置くなどして、握力の向上を目指す。校庭や体育館にボール投げの的や、ストラックアウトを作るなどして投力の向上を目指す。

国際	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通じて、実際のコミュニケーションで活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。 外国語を通じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を考慮しながら、一人一人の思考が働く学習活動を充実させていく。 実際に活用できる場面として、外国人留学生との交流や異学年交流、東京グローバルゲートウェイでの体験などを行う。 担任、専科教員、NTの3人体制による少人数指導で、きめ細やかな指導を行う。 パフォーマンステストを定期的に行い、技能の定着を図る。 高学年については、通常授業に加え、週1回のモジュール学習で、外国語の音声や文字に親しませる。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の指導の重点（善悪の判断、自律、自由と責任）の育成。 道徳の授業で身に付けた道徳的価値の実践力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値に迫るため、教材の提示の仕方を工夫する。 グループやペアなど様々な形態を取り入れた学習形態を工夫し、話し合い学習活発に進め、重点価値項目の向上を進める。 道徳ノートの活用や、友達との意見交流による振り返りの充実を図る。 全教育活動を通して、身に付けた道徳的価値の実践力を高める。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図り、協力して自発的・自治的な活動を展開できる能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年集団で行うプラチナタイムにおいて、それぞれの学年に求められる資質・能力を明確にし、意図的・計画的に取り組めるようにする。 自分の役割を自覚し所属感がもてるよう、係活動や学級会を継続的・計画的に指導していく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を設定し、解決していく力 収集した情報を生かして、要点をわかりやすくまとめたり、自分の言葉で表現したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に不慣れな状況から学んでいくので、必要な情報を見付けることから始め、わかりやすくまとめる段階、自分の言葉で表現する段階を踏んでいく。 情報収集や取捨選択の為の具体的な方法を提示することで、個人差が大きくなりすぎないようにする。